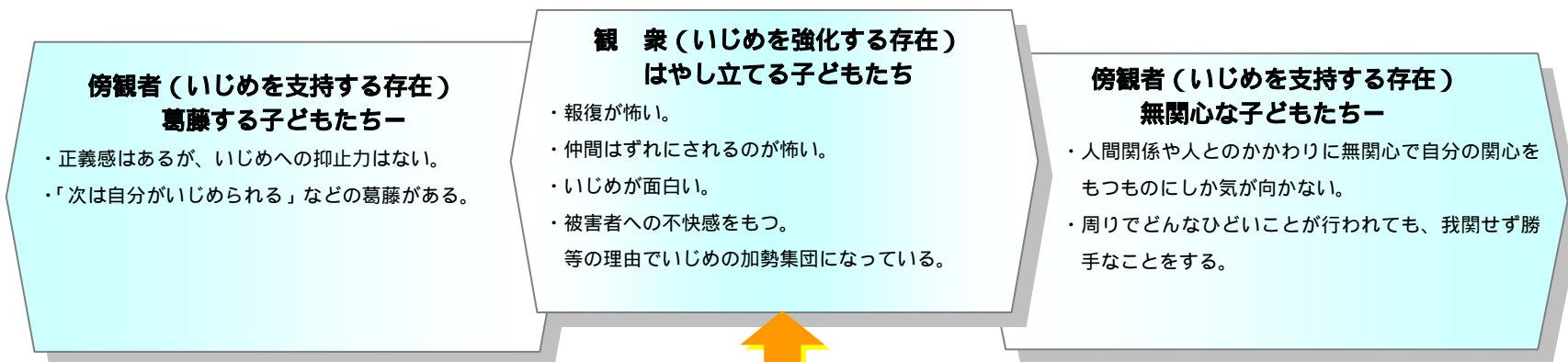


観衆・傍観者への対応策（観衆・傍観者も加害者と同じ）



指導内容（組織的に実践）

- 1 「観衆」や「傍観者」はいじめを助長したり、抑えたりする重要な存在である。
観者も加害者と同じだという自覚を深める。
人間として正しいことを主張する大切さを徹底して指導する。
- 2 いじめられる側にも問題があるという受け止めは許されない。
- 3 相手の気持ちや立場を思いやる心を育てる指導をする。
他人に優しくしたり、優しくされたりする経験を増やし、意識させる。
思いやりのある行動を取り上げる、広める。
日常生活や体験活動を通して、温かな人間関係を築く。
- 4 「かけがえのない命」を大切にする。

学習づくり

学級活動・道徳

- ・具体的な事例をもとに指導する。この時、人格を傷つけないよう人権に十分に配慮する。
- ・いじめられる子どもの心の痛みや苦しみを理解させ、いじめを止められなかった自分たちの心の弱さに気づかせる。

- ・「あいさつを交わそう」「困っている仲間に声を掛けよう」など目標を立て、人間関係づくりの土壌を培う。
- ・友達のよさや自分のよさを見つける活動を進める。
- ・責任をもって係や当番活動を行っているか定期的に見直しを図る。
- ・まちがいを出し合える学級をつくる
- ・学習するルール（聞く・発表）を守る。

学校行事

- ・励まし合い、協力し合って物事を達成していくことの喜びや充実感を味わわせる。
- ・一人一人の存在感や集団としての連帯感を育てる。